

「誰一人取り残さない」世界のために

日外協「SDGs フォーラム 2023」が2月24日、オンラインで開催された。
第4回目となる今回のテーマは、「人権への配慮」。世界の現状はどうなっているのだろう。

1 SDGsフォーラム コーディネーター・司会

明るい未来へ向けて

一般財団法人 日本総合研究所
特任研究員 黒田秀雄氏

(くろだ・ひでお)東京海上火災保険㈱で30年間勤務後、退職。
2004年4月東京富士大学短期大学部教授に就任。その後、
東京富士大学教授となる(担当科目:経営戦略論、専門ゼミ、
初年次教育)。定年退職後、17年4月から現職(研究対象:
SDGs、地方創生)。「BOP ビジネス研究会」代表幹事。

暗いニュースばかりが続く中、次世代のための明るい材料の一つが「SDGs」である。SDGsの視点は、ビジネスにも社会生活にも欠かせないものになっている。

「誰一人取り残さない」を基本理念とするSDGsは、ゴール1. 貧困をなくそう、2. 飢餓をゼロに、3. すべての人に健康と福祉を、4. 質の高い教育をみんなに、5. ジェンダー平等を実現しよう、10. 人や国の不平等をなくそう、12. つくる責任つかう責任など、人

権に対する配慮を強く訴えかけている。

人権への配慮は企業の評判とブランドを守るだけでなく、企業価値を高めるという意味でも欠かせない視点と言える。

SDGsのゴールである2030年が近づいている。「誰一人取り残さない」希望あふれる明るい未来へ向けて、取り組みを着実に継続していかなければならない。

本日の2人のスピーカー、1人目は弁護士の佐藤暁子さん。佐藤さんは、国連で人権問題に取り組んでいる。講演のテーマは、「サプライチェーンとSDGs」。日本人は人権に対する感覚をしっかりともっているだろうか。人権問題は企業がグローバル化していく過程で、避けて通れない重要なテーマの1つである。

2人目は歌人・小説家の田中章義さん。世界中を旅して各地で歌を詠んできた。これまでに訪れた国は100カ国以上に上る。人権はどこまで守られているのか。旅での経験を通して語っていただきたい。



左から田中章義氏、佐藤暁子氏、黒田秀雄氏